

私のおすすめ

IT

“iPhone 編”

天野隆文

天野皮膚科医院（逗子市）

昨今、完全に市民権を得た感のあるスマートフォンですが、私も御多分に洩れず iPhone のユーザーです。以前よりあった i-mode なるガラケーでのインターネットには目もくれず（と言うよりは手軽に出来るネット環境に羨望はありましたが f^_^);、長らく PHS を使用していました。そんな中 2005 年にタッチパネル、キーボードを備えた W Zero3 という端末が発売されます。ポケットに入るサイズで MS ワード、エクセルが使える、音楽ファイルもたくさん入れておける。今となっては……ですが、通信速度も当時最速だったと記憶しています。そしてその 3 年後、ついに日本でも iPhone3G が発売されます。実はその 1 年前に WiFi でのみ通信できる iPod touch が出ていましたが、発売当初は今のようにアプリを自由にインストールすることができませんでした。ただ、コアな愛好家もいて、Jailbreak と言ってセキュリティーホールをついて勝手にアプリをインストールできるように改造したりしていました。このころのほういろいろカスタマイズできて面白かったかもしれません。その後、毎年新しい機種が発売され、その都度、発売日にゲットするもはや信者になっています。手のひらに入るサイズでかなりのことができる夢の機械はもはやひと時たりとも手放せなくなり、すっかり中毒となっております。

そんなスマートフォンですが、やはりそれを使いこなすにはアプリケーションはもちろん、パソコンとの連携もとても重要です。いくつか便利なソフトウェア、アプリケーションを紹介させていただきます。

1. 一般

① ファイルのやりとり

まず、iPhone と PC の連携に欠かせないの言うまでもなく iTunes ですが、これが意外と万能ではありません。私は PC とのファイルの受け渡しの時に「Copy Trans」というソフトウェアを愛用しています。iPhone に保存されている音楽ファイル、動画などを PC に移動する際に重宝します。

② 遠隔操作

いくつかありますが、通信量、動作の機敏性から「LogMeIn」というソフトが使い勝手が良いです。PC にクライアントソフトを常駐させ、iPhone からは「Ignition」というアプリでログインすると外出先から、クリニック、自宅等複数の PC にアクセスができ、テキストファイルなど持ち出しを忘れたときなどにも便利です。

2. マルチメディア関連

① 動画編集

「DVD Flick」このソフトは、動画ファイルを DVD に変換するのに非常に役立ちます。操作も比較的簡単です。「DVDFab」こちらも動画ファイルの変換に使いますが、Blu-ray の作成にも対応しています。4 K 画質を劣化させずにディスクに焼くのに役立ちます。「HandBrake」こちらは様々なフォーマットの動画の変換に利用できます。以前に作成した DVD から iPhone で見られるようにするファイルへの変換などができます。

② 音楽関連

CD からのエンコードは iTunes でできますが、タグに編集には「STEP_M」や、「mp3Tag」というソフトが

便利です。ファイルに文字情報やアルバムアートを挿入するのに役立ちます。

③テレビ視聴

これはハードウェアがひとつ必要になりますが、自宅に設置したレコーダーに接続して外出先から視聴ができるようになります。私が利用しているのは「Slingbox」という機械で、インターネット環境があれば録画した番組、BS、CS放送も海外からでも視聴が可能です。iPhoneのアプリは「Slingplayer」というアプリでアクセスします。

3. その他

「CamScanner」こちらは学会の時などに利用する機会が多いのですが、カメラでプリントを撮影し、歪みを補正したり、簡易OCRが可能なのでプリントの文字をテキストに変換するのに役立ちます。

まだまだ色々と愛用のソフト、アプリがありますが、ちょっと毛色が変わったところでご紹介させていただきました。しかしここ10数年の間に、それまでは簡単にはできなかったことが手のひらの中でできてしまう便利な時代になったなあと思う今日この頃であります。

Movie

高橋泰英

高橋皮膚科クリニック（横浜市中区）

編集委員のお許しにより、連載で最近数年のお勧め映画をご紹介しますことになりました。よろしくお願いたします。

『おみおくりの作法』身寄りのない人の葬儀を担当する民生局員の話。生前の宗教・趣味などを丹念に調べてその人らしい葬儀を行う実直で孤独な主人公。ご想像通りものすごく地味な映画ですが、平凡な生活をしてきた人にもドラマがあるということが良くわかります。ほとんど表情のない主人公ですが、理不尽な上司に対する怒りや、誠実な仕事ぶりを認めてくれた女性に対するわずかな笑顔が微笑ましく、途中から完全に感情移入してしまい、ラストは久し振り(?)に号泣。

『顔のないヒトラーたち』第2次大戦後10年以上経過した西ドイツ、かつてのナチス親衛隊員たちが過去を隠して各界で活躍していた。検事局も世間もナチスの悪行は忘れ去りたいという空気が横溢していたようです。日本と違って戦争犯罪を厳しく追及したと思われるドイツでも、やはり隠せるものは隠したいというのが一般の考えなのでしょう。駆け出しの検察官がアウシュヴィッツでの悪行に携わった元親衛隊員たちを、周囲からの圧力に抗して裁判にまで追い込んでいくサスペンス。昨年観た映画のNo. 1でした。

『プリデスティネーション』タイムパラドックスもののSF。普段最後まで騙されることの多い私が、これは不幸にして途中でからくり気づいたのですが、それでも楽しめました。気づかなかった方には、幸せな驚きが待っています。バーの客の身の上話を、気に入って観て下さいね。

『僕のエリ 200歳の少女』孤独な少年とバンパイアとのラブ・ストーリーということになっていますが、残酷な場面も多く、ホラーと思った方がいいです。確かに美しく切ないのですが、ある事実気づくとぞっとしてさらに切なくなります。

『マッドマックス 怒りのデス・ロード』「マッド・マックス」シリーズは昔ご覧になった方も多いと思いま

すが、第3弾から30年後に同じ監督で制作された第4弾。ひたすら改造車の追っかけシーンが続くだけなのですが、CGを使わず実写のみというのが信じられない迫力。なんと480時間も撮影しそれを編集で2時間にまとめたそうです、バカ（誉め言葉）ですね。

『6才のボクが、大人になるまで』少年が大人になるまでを、両親、姉役も含めた4人が本当に12年間かけて演じたファミリードラマ。両親役は有名な俳優ですが、少年はこの映画が完成するまで全く普通の少年で、年に1度撮影の時だけ俳優になるという生活。それだけ新鮮味を保てたのですが、途中で亡くなったり出演を拒否するといったリスクもあるわけで、監督は完成まで気が気ではなかったと思います。同じ監督の『恋人までの距離』『ビフォア・サンセット』『ビフォア・ミッドナイト』もまた男女2人の9年毎の、とある1日を同じ俳優で描いたもの。ウィーンやパリを歩き回ってひたすら会話を交わすだけなのに、心の動きがとてもスリリング。ついでに『スクール・オブ・ロック』はロック好きなら必見。

連載中止と言われた時のため、かなり古い次の3つもぜひ紹介したい。

『セント・オブ・ウーマン』盲目で偏屈な退役軍人と、休日にその世話をすることになった高校生がニューヨークでの数日で信頼関係を築く様子を描く。フェラーリの運転に度肝を抜かれ、美女とのタンゴ、高校の聴聞会での演説に感動。

『ロック・ストック・トゥ・スモーキング・バレルズ』古い銃と大麻を巡る数組のドタバタサスペンス、劇中の曲も聴きどころ。

『ディナー・ラッシュ』ニューヨークのレストランでの群像劇。こんな大人数が出てくるのに、夫々のキャラが立っているのが凄い。

縁があれば来年またお目にかかりたいと思います。

